

オオムギ主要病害の初期病斑

オオムギ網斑病、オオムギうどんこ病、オオムギ雲形病は、典型的な病斑に対して、初期病斑の見え方がかなり異なります。早期発見のために、それぞれの初期病斑の特徴を示します。



1. オオムギ網斑病

並列する葉脈が黒褐変し、葉脈間が黄化するため、網目状、あみだくじ状の病斑になりますが、発生初期は微細な褐点として現れます。褐点周囲に黄化を伴っているのが特徴です。

暗色の分生子柄が直線的に並んでいます。これは黒褐変した葉脈上に生じているためです。



2. オオムギうどんこ病

初発時には白粉状ではなく、淡褐色の菌糸塊のような外見で葉上に現れます。白いうどんこ症状を目当てに探していると見逃します。過繁茂状態で発生しやすいので、圃場内で生育の良いところをまず調べます。

分生子は長く連鎖します。分生子柄基部の膨らみがオオムギうどんこ病菌の特徴です。



3. オオムギ雲形病

紡錘形～楕円形の灰褐色病斑は、褐色の縁取りがあり、病斑周囲は黄化するので、明瞭な分かりやすい症状ですが、発生初期には縁取りが無く周縁不明瞭、形も不明瞭で薄墨を塗りつけたようにも見えます。

分生子は無色、2細胞、先端の細胞は先が尖りやや屈曲します。